いらつめ

第五年五號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

いらつめ第五十号目次（明治廿三年五月一日）

●文藝美術……五社百詠（續）……………………………………後成卿
網代＝神樂＝鷹狩＝炭竈＝爐火＝歳暮
○春の空（俳句）…………香圃女史＝郷𥡴舍
楓＝桂香小史＝中山花子＝蘆野潤三郎
＝松枝卷江＝坂井よし子＝福富翠亭＝
渡邊芳雄＝芳山人＝清水隆＝撫箏女史
＝深野忠三郎
○春の空（和歌）……………永島芳子＝高木と
ら子＝羽柴よしえ＝撫箏女史＝松枝卷
江＝郷𥡴舍楓＝菊野花子＝菊水＝横山
ひろ子＝奥野やす子＝滑翠＝有本久光
＝本吉直三＝雪の園主人
○春の空（唱歌）…………翠亭外史＝松乃
○春の空（文章）…………奥野やす子
○雨中に櫻を折る（俳句和歌唱歌）
○無常（韻文）…………………排水龍濯
○玉椿（韻文）…………………綠梅子
○情人死（韻文）………………朧月子
○靜　韻文）……………………松髏生
○炭ぐろ（小說）第一回…………美妙齋主人
●數學…加法…………………………綠梅子
○第四十九号解義
○新題

社告及び社則　いらつめ一部並製金二錢五厘郵税共金三錢、十二部金二十九錢郵税共金三十五錢、二十四部金五十七錢郵税共金六十九錢、三十六部金八十四錢郵税共金一圓〇二錢、四十八部金一圓郵税共金一圓二十四錢●別製一部金三錢五厘郵税共金四錢、二十部金六十五錢郵税共金七十五錢、五十部金一圓六十五錢郵税共金一圓九十錢●並別兩製共前金領收の上で無くては差上げぬ事●府內に限り無郵税●毎月二回（十日二十五日）發兌●金子御差し送りの手續きは郵便小爲替なれバ拂渡郵便局とある處に（神田郵便局）と記し受取人欄內に（神田平永町九番地成美社）と御記入の事●郵劵代用は郵便爲替の無い處に限り五厘切手で一割り增しあれは妨げ無い事●見本は、五厘切手で並製五錢別製七錢領收の上差し上げます●廣告料一行金八錢、割引無し

從第四十八號至第五十七號十部版權所有

明治廿三年四月三十日印刷　明治廿三年五月一日出版

發行人　東京市神田區平永町九番地居住　山田武太郎

印刷人　東京市本郷區駒込西片町十番地居住　山本鑑之進

發行所　東京市神田區神田平永町九番地　成美社

本号には春の空と題する俳句和歌唱歌文章雨中折櫻と題する俳句和歌唱歌無常、玉椿、情人死、靜などの諸韻文及び美妙子の炭ぐろと題する新作小說が載つて居ます

文藝美術

五社百詠（つゞき）　俊成卿

○網代
田上やうちの網代もる〻ありて日をへん日をも哀いつまで
むかしたれうちのあしろを打ち初めて今も心を人のよすらん
千はやふるうちれ河長老よけり網代ハとしもよるにそ有ける
ひそのよるうちのあしろに船とめて氷とく〻る月をこそミれ
つき〻よみ田の上河の網代木ハ氷うちよる名にこそありけれ

○神楽
香古山やさかきの枝よにきてのけその神あそひ思ひこそやれ
千〻やふるかもれやしんの神あそひ榊の風もことよのくこし
吹たつる庭火の前の笛の音ハあまのいは戸もさこそあきけめ
松かせにやまとことのねひ〻きあひて庭火の笛も空にそむ之
あおさやけあおおもしろとそもる榊とる榊葉に霜のれくやと

○鷹狩
かせさむみかりその小野を朝ふめハ忍ふもちすり霰ちりのふ
おはつのおとかへる鷹もいのならん狩場の小野の行くれの空
雪ふりぬまてしやすらへ御狩野よ白ふの鷹の木ゐやまのへん
御かりするかたの〻小野に日ハくれぬ草の枕と誰よからまし
はのあしやのため〻原よ立き〻す絶ぬかりけとりつハ見ふん

○炭竈
すミかまの山の奥までミゆるかあ民のつとめれ限りあけれと
炭竈のをれのけふりの雲冴えて　まよふ旅ひと
遠かたや都のたつみたれすみてまきの炭かまけふりたつらん
冬くれて小野れ炭かまき借ひ出て時にあへりと思ひか借なる
すみかまも氷室も近き小野山ハ火と水とあそへたつありけれ

○爐火
埋火とかきおあさすハふゆれ夜のね覚の床ハともなからまし
ありとたに人ハ忘る〻はひの下に何の思ひのなほのこるらん
としくれてあるにもあらぬ埋火に老はつる身れ程そしらる〻
山かつのまつきさしあはせ埋火の世にある物とたれか知へき
うつミひにそよし春ある心ちして夜深き冬をなくさむるかな

右最後の歌ハ又風雅集にも出てゐました

○歳暮
月日のミあかる〻水とはやけれと老の底よりとしハのへらん
思ひきやくれゆく年をしみつ〻八十ちちのくあらん物とハ
岩根こす八十うち河の浪よりもはやくも過るとしのくれのあ
けふ毎にいくとせ浪を過ぬらんつもりれ浦の試よあのきし
けふ特に[illegible]のかたへたより行ハむかし[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第十六回懸賞文藝應募得点

題　春の空

○俳句

薄く濃く霞のどけき春のそら…………香園女史（カイ）
佐保姫のそでのたも見えつ春の空…………鄕廼舍楓（ヘスダ）
はれ〳〵と霞たつなり春のそら…………桂蘇小史（トウケイ）
鶴高く舞ひあがりけり春のそら…………中山花子（マシン）
むぎ踏ゑのくはへぎせるや春の空…………同上
花の香をあつめて高し春のそら…………萱野潤三郎（イヘシロ）
　右評　高しの疵まあるまじし
春の空波立つ雲もなかりけり…………松枝馨江（ナヒワ）
ひばりなく聲高低や春れそら…………同上
目とさます花の上ある春の空…………同上
靜さを低うもちけりはるのそら…………同上
　以上十首無賞
朝々は晴るゝにもせよ春のそら…………坂井よし子（カヘナ）
牛吼て雨よありけり春のそら…………稲富翠亭（トウケイ）
のどかなる人のこゝろや春の空…………渡邊芳雄（トウケイ）
春の空ひばりの聲よゐそそゝけり…………芳山人（キヤウト）

降るものに苦れあざふらや春の空…………[illegible]
青海に重なる色やはるのそら…………同上
　以上六首いらつめ一部
花の香に曇るやうなり春のそら…………清水監（マス）
いろわりてかとるむかりの春の空…………萱野潤三郎（イヘシロ）
さく花のうゑりよかそむ春のそら…………撫箏女史（ハミ）
春のそらあの時あそと雲雀なく…………深野忠三郎（シナマ）
　以上四首第三等賞

○和歌

のどらある空のひかりに咲出る
文の林のことの葉の花…………永島よし子（ブカリ）
ひきそめし霞に花の色そひて
匂ひのどけきはるの空かあ…………高木靚樂子（トウケイ）
大空ハ乙女の衣染よけり
花の霞を風よちらして…………羽柴芳江（セン）
うらゝかに空のけしきのかすますれ
春たつけふをいうでしるべき…………撫箏女史（ハミ）
凧投て見に出し春の大空ハ
もつれ日和にわらぬ糸かあ…………松枝馨江（ナヒワ）

元來狂歌ハ採用しない筈ですが右の一首ハ狂歌でも意味の狂でわらぬものゆゑこゝに載せることにしました。

以上五首無賞

見はぐれバ空よそ花の咲くやらん
春としきたバ風香るなり……………郷廼舎楓（ヤマグチ）

草も木も春のにしきの綾なれや
見るめまバゆきかげろふのろな……………菊野花子（フルサ）

うらうらと霞にこめて出る日の
影ものどけき春のそらかな……………菊氷（トウケイ）

霞たつ空ハなやまし鶯の
いづこともなく聲の聞ゆる……………同上

若艸のもゆるけふりや立ちぬらん
かそけくちなる春のそらかな……………横山ひろ（カヒ）

そちこちの山はかすみに沈めども
なゝろうきたつ春のそらかな……………奥野やす（サカ）

以上六首いらつめ一部

春の野に雨ふるとぞゝる青柳の
糸よりもゆるかげろひのそら……………菊野花（子フルサ）

曇りなききよのためしといづる日の
影ののどかなる春のそらかな……………滑翠（トトリ）

以上二首いらつめ二部

いつとてもくもるハ空し空なから
春ハおぼろと花ぞいぞそる……………有本久光（イハシロ）

久方のあめの光りのくまなきハ
人のこゝろものどけかれとか……………永島芳子（アサリ）

久方のみそらハ春のはな曇り
ふく風さへもかをるなりけり……………菊野花子（フルサ）

見え渡る空のかぎりハおしなべて
かすみな渡るゝ春なかりけり……………本吉直三（カガ）

大空ハかすみの海となりよけり
いつれに雲の浪やよすらん……………同上

うらうらとかすみこめたれる空にまそ
長閑けき春のいろハ見えけれ……………横山ひろ（カガ）

花鳥の色香に霞む春れそら
世まのどけさの限りなりけり……………春の國主人（アサカ）

以上七首第三等賞

花ともひ霞ともひへど姿にて
春のとゝろ[illegible]……………[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

野も山もはな染衣まとふ日は
　そらもかすみにつゝまれにける………菊野花子（レセフナサ）

月雪にまさりて潔きはおぼろも
　花もゑくもる春の大そら………羽柴芳江（ロヤセン）
　以上三首第二等賞

吹く風も花のふゞきに色みえて
　なびく柳のいとゞのどけき………菊野花子（レセフナサ）
右の湊作は惜しいことに題外の事を述べられましたもの
無賞です。

○唱歌

（イ）
野邊には霞の幕をひき、山には櫻の雲みてり。
かなたの幕には月やどり、こなたの雲には鳥啼けり。
たのしきながめや春の空。
翠亭外史（トロクイ）

（ロ）
空は霞に月おぼろ、海はのどかに波靜の、
かなたの月には歸雁なき、こなたの波には魚おどる。
たのしきながめや春の空。
同上
以上二曲無賞

（ハ）
松乃（イヘレロ）

更衣をいそぐ佐保姫の　たすきの見ゆる春の山々。
右いらつめ一部

○文章

（イ）　奥野やす（ロカ）

最と長い春の空、流石路と急がぬ東風、悠々―脉々―野面山邊と吹く其快よさ―、此暖かな此情ある春風、それに絆されて何時しか嬋妍に着かざつた遠近の桃櫻。それにつけても悲しいのは……草木でさへ此春には競ふて好みの春着を着るものを悲しい賤が身の纔かに他の賃仕事で細い烟を上げてゐる甲斐なさは………

妙に音を調べる百鳥、花を訪ふうと杖を曳く遊客。　見ること聞くこと總て思ひの種。　これでも昔は……と想へば猶更胸が……座ろにせきくる涙の糸。　あゝ不覺―、何の悲しむことかそ……今にも強き嵐は吹くならば、彼の嬋妍な、彼は嫋娜な花も忽ち泥に化するものを……たとひ此身は襤褸を纒ふともまだ人に不道徳な事を……せぬとて自分だけが許そまで人が何んと言つてゐるかは……俳し落魄てもまぶ人の門に佇むまでは………此点だけならば彼の桃や櫻の泥に化するものに比べても幾許らか優る、とまでには行かずともよもや劣ることとは……と思へば今迄の悲しさも何時の間にか

消え失せて却つて花を見ても誇るやうな心持にもなりました
ても人の心ハ種々に變化するものゝ、

右評　これもをしい事に題外の事を述べられました。

右無賞

第十七回懸賞文藝應募得点

題　雨中に櫻を折る

○俳句

分別の外で折りけり雨のはな…………中山花子（グンマ）

かざすて〵ぬれても折るや初櫻…………同上

降る雨に散らさじと折る櫻かな…………松枝春江（ヒツチウ）

折る手元つゆをいとはず花櫻…………郷廼舎楓（スハウ）

以上四首無賞

口に袖雨をぬめつゝ手折るかな…………琴氷（オホサカ）

雨の中をるも土産やはつざくら…………清水隆（ハリマ）

以上二首いらつめ一部

櫻をる庭や春雨にくさうに…………松枝春江（ヒツチウ）

ぬるゝ雨に折てかざすや夕ざくら…………郷廼舎楓（スハウ）

雨の日も親の好みや折るさくら…………清水隆（ハリマ）

以上三首第三等賞

○和歌

山櫻一枝折らんと立ち寄れバ
落つる雫に袖ぬらしけり…………根本重衆（フクシマ）

春雨にぬる〵色香のうるはしく
手折らバうしや雨ハやまねき…………琴氷（　）

降る雨をいとはで櫻折りにけり
香るしづくを袖にうけつゝ…………郷廼舎楓（スハウ）

以上三首無賞

降る雨にをのゝく花の唇も
手折れバ笑ふ心地こそすれ…………雪の園主人（ギフ）

櫻花あかぬ餘りに春雨の
ふるもいとはず手折りかざしつ…………横山ひろ（ヒウガ）

花の上にふれる春雨色そへて
をるにもをしき山さくらかな…………本吉直三（ヒウガ）

玉の涙雨と滴る花の面は
たをるこずゑを惜むなるらん…………初柴登江（ヒウガ）

乙女子が折りのさしたる櫻花
ぬれにし雨の色ぞゆかしき…………[illegible]

あめにそぼち咲る櫻の色にめで〵

我もぬれあん花のしづくよ…………………菊野はな子（シモフサ）

つれあくもふる春雨よ花ののいろの
移ろはぬ間よいさや手折らん…………………高木覩樂子（トウケイ）

花に降る春の雨足低けれど
手折るも高き枝にこそあれ…………………松枝馨江（ヒロサキ）

以上八首いらつめ一部

春雨に手折る櫻の下雫
そでよゝゝるゝ花のあみだの…………………菊野はな子（シモフサ）

ふる雨に家路をいでゝ仙人も
過行きかねてをるさくらのあ…………………永島よし子（イブリ）

雨の日よ友の住家をおとづるゝ
山路のつとにをるさくらかな…………………同上

わがきぬハいかにあるともをしからじ
花のしづくにぬるゝとおもへば…………………芳山人（キヤウト）

のべし手は折るまもわらせ山櫻
落つるしづくも猶よやふあり…………………柳巷（トウケイ）

歸路に春雨いたく降りぬれバ
櫻花笠をりてきまけり…………………根本重讃（ソウマ）

櫻花晴れ間もまたで手折るかな
雨にうつろふものと思へて…………………[illegible]

ぬれつゝも折りてそ行かん櫻花
あそハ盛りの雨につくべき…………………碧溪閑史（オホサカ）

さくら折る袖の雫ハ春雨の
花やをしめるあみだあるらん…………………本吉直三（ホクカイ）

ぬるゝとも手折りて行かん櫻花
見もせぬ人の家づとよせん…………………香園女史（イガ）

我閨のあかめと手折る花のもとに
こゝろにくゝも忍ぶはるさめ…………………雪の園主人（イブリ）

以上十一首第三等賞

櫻花手折るもをしゝこのはあれど
けふゝゝる雨にうつりもかまし…………………横山ひろ（ヒロサキ）

散らでさく物あらあくに櫻花
はるさめにのこまりすべきこのは…………………菊野はな子（シモフサ）

以上二首第二等賞

折るもをしとらずバ雨に散りあんと
おゝろあらせも手折る枝のな…………………滑翠（トウケイ）

右第一等賞

○唱歌

（イ）

雨もいとはで乙女子の　さかりの花の枝折れバ

露の玉水かつちりて　無情の花さへ悲しめり。

翠亭外史

右無賞

（ロ）

けさ〻きそむる櫻花　手折るはいとゞうけれども

撫箏女史

友のやどりのつとにして　あめのつれ〴〵なぐさめん。

右いらつめ一部

無常（韻文）

排水龍濯

あはれ、我妻の墓來て見れバ　涙のつゆよむしも鳴けり。

秋とはいへど淋しさは　ひときはまさりて見ゆるなり。

薄月のそるこのしきみ　こぞはとも〳〵父の前に—

いまは悲しやひとりのみ。　思はぬ汝のその前に……

數ふればたゞみとせまへ、　咲きし千日の桃のはな、

いろのも褪めて今は野邊、　實をも結ばぬ哀れさよ。

思へばゆかしきその春、　かたみれ袖を花の蔭に——

いまは我のみたゞすめる——　あゝさめし夢いつのまに……

繰言いふにあらねども　あじきなき世をいかゞ經む。

こよひはわれの草のうへ　しとねにひと夜かたりてむ。

あれし聲音をたよりつゝ　心落ちなく聞けよかし。

汝もへさてなく語りつゝ　うれしき夢をむすぶべし。

やよ—、情なきむらしぐれ　何をねたみてわがゆめと……

みげなきわざも時によれ、　あだには濡れぬ我なくを。

いさや歸らむわが妻よ。　無明の夢は買へぬなり。

あらひといへとこの浮世、　無常といふもあまりあり。

評　句もまだ熟して居ませんが想像は中々佳です。

玉椿

緑梅子

枝撓むまで咲くさくら、　霜よけ除けて笑む椿、

いづれ劣らぬ姿あり。　さバれ櫻は春の風、

つバきは氷むすぶ時——　誰ぞ?、千金の價なしとは。

評　新意匠です。

情人死

朧月子

老樹のかげのこけごろも　かつぎて君はいしの下、

いとやはらかにいねたまふ。　あゝいつの君がさめ[illegible]。

いとうるはしく咲く花も、　いと清らかにそむ月も、
みれバ思ひをますかゝミ、　うつる姿も君とみゆ。
手に手をとりて夕ぐれに　そゝろありきとせし園の
草木も君のおもかげの　見えぬを怪しむふせいなり。
思ひかなハぬ世と聞けと　かくバかりとも知ざりき。
比翼連理のそれのミか！　月下翁のうらめしや。

靜

松濤生

一年淡路にありし折、志筑といふ所にて靜の祭りあるそれの梵王宮にまゐりて、

芳野の山の奥ふかく、　みねのしら雪中たえて
入りにし君はいづかたへ　落ちしの更に見えわかず。
一木のこりし櫻ばな　あさけ用捨もあらけ無き
世の雨かせにひらく〳〵と　散り行くさきは星月夜、
かまくら山の鶴が岡。　そゝまぬ心そゝめられ、
舞ひ翻へすそれ衣は　よし薄くとも君おもふ
心そあつし、うたふ歌　よしかろくとも君したふ
情そふかし、天がした　しろす君をもはゞからは

直きミさはの小田まきを　くりかへしたるひとふしよ
武きあづまの夷さへ　袖しぼらぬぞ無かりけり。
又もやこゝそいづの海、　いづこをあてとしらま弓、
其弓とりのならひとて、　昨日の連枝、今日の仇、
豆がらと焚くふる事を　今こゝよ見る君がうへ。
まして其身は捨小舟、　うき世のあミにたゞよひて
はる〳〵こゝに紀伊の沖、　幸さへ身にはゞはだしま、
この浦浪にあがれつき、　海士のやく藻よしほからき
浮世をしづの草の屋よ、　昨日と過ぐし、今日とくれ、
ふちせとかはる飛鳥川、　飛びかふ千鳥友としつ、
ものうき月日七とせの　長き閲をおださくら
ゆふべのあらしよ誘はれて　ちりはてにけりこの浦よ。
こぞの初秋われこゝよ　まうで來見れどそのかみの
歌舞管絃のをり〳〵よ　用ゐたりけん小つゞみと
堀川御所の夜討ちをも　ふせぎたりけむ薙刀の
そのいしづきの外はたゞ　きざミしそがた有るバかり。
苦むすほこら、片とびら、　池の眞中よたちたりき。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

つまれ菩提とこゝにのれ　まつりしなせゝ人は言ふ。
かれもろこしの揚州や、　杜陵の花でふび人の
あみだをたれぬもの無きに、　こゝおとつれてくるものは
みねれわらしに、鐘の聲、　そだく虫の音、てる月と
思へば袖よ村しぐれ、　木のしたつゆとまがふあり。

評　頗る面白く思はれました。猶一曲ありましたが捨てました。

炭ぐろ

美妙齋主人

第一

「婚禮した當座は恐ろしく内氣なやうだッたが、強氣よこの頃は氣がつよく爲つた。」

斯う呟いてたゞ一人腕組みをして部屋れ一間張の小机の前に坐つて居たのは卅歳ばかりの男、名を疾石猖次といふものでしる。

「何だ、人を、わあたの浄目鏡ちがひですと！　馬鹿、何の目がのねちがひあものか。つもッても見るがいゝ」。更に斯うつゞけてろして烈しく溜息と吐いて、兩手を頭の上に指と指を組を交せて高く捧げながらぐッと目を見張りました

顔付きは瘦せ形の方で、もつとも目に立つのは美くしい齒ならび、入れ齒の看板と朋友が評した事も有ッたとやらでした。

急もよほしの四月の暖氣、そなはち「花れ雨鯛よ搗する夕がな」で、今朝吹き込んだ南にぬくめられて今日はフランネルの單衣に羽織を一枚引きかけたばかり、逆上症と見えて鼻れわたまから額れ隅の邊よ粟粒のやうな汗と浮べて居ました。

どうしても大不滿足が有る体。やがて無慈悲にその一閑張りの机を手でおしやッてふたゝび呟きました、さも重重しく。「づう〳〵しい！」

所へ隔ての襖を明けたものが有りました。是を細君、まだ廿にあるやならず、ちと青い程に白い顔色でそして小づくりな身体。襖を明けてそこし中に入りましる。

きッと男は睨み付けて、そして無言　言はせとも犬も喰わぬ眞似を今の間に爲たことでしやう。無言で細君を、しかも上目で見る。細君はさからいぬ顔つきと聲がら。

「あれ酒屋がまゐりましたが、晩には浄わがりあさいますか！」

「うん」。惜しさうよ返辭を爲ました。が、元々咽喉のところで呑み込んで仕舞ッた聲。片方よも通せず、

「え、あなた、御酒……」まだ怒って居るのかと呆れ半分の調子。

「飲むッてへば！」

霹靂の一聲。さうらはず心得て立ち去らうかとする。すると夫は何か口の内でまたぐづ／＼。聞きそこなふとまた御目玉。足をもどして、

「何のおつしやいまして？」

「酒ぐらゐ飲んだッといゝだらうが。」またからを付きました。

「え、……」

「つまるもんか、酒でも飲まないで。人、人には散々勝手な眞似を爲れて。其處邊に犬が居るから仕樣が無いさ。」

顔に有りたけの苦味を彩ッて惡体に言ひました。いよいよ細君阿秋の癪もさはる。たゞ堪忍の袋を閉ぢてだまッて部屋を出さうに爲ると、

「早く行かないか？ ちッ！」

行くなと言つたとて用が有る。行かないでどうするものか急き立てるだけが胸のわるい！ 無言で襖を引く、後には殘る夫の聲。「直ふくれらア」。

襖を閉め切ッた後の妻の足音をば目に皺を寄せてつく／＼と聞き了り、また腕を組んで考へ込みました。考へ込む、すると二人が見合ひをした其時の事うらが順々にあッて思ひ出されました。

どうも見合ひをした時の樣子では大人しさうであッたのです。或は肺病でも出は爲まいかと云ふ程に沈鬱の体で、そして色も蒼白く、しつかりした世話女房として欠ける處は有るにしろ、まづ内氣の大人しい女とは見えました。

性來がこの猪次はおとなしい猫のやうな婦人を好む質。菊石も笑嘐と云ひ做す媒妁が並べ立てた本人の内氣の証據數十條、それにことく／＼く惚れ込んで嫁にもらッたのは去年の三月桃夭々といふ頃でした。

それからは交情よく暮らしました。猪次はある省の判任官、大した收入は無いにしろ、別に困る程でも無く、砲工場にある中等品を常に用ゐる位の家計を張りました。妻に寄せる愛情もはなはだ濃かく、異体同身の親しさはたしかに有りました。が、性來の非常の嫉妬、それが第一の瑕でした

阿秋も其實處女の頃は極めて内氣であッたに違ひ無く、婚禮をしてから後數ヶ月の間は猫をかぶるといふ事でも無くて

たゞ全く内氣であつたのです。　ある日夫の留守、町内に祭禮が有るとやらで町内の若いものが多分の事を言ッて錢を取りに來た、それ時はかく／＼しく應對も出來ず、終にその應對の役をばわが姑の隱居にたのんだといふ程でした。

　いくぢが無いぢや無いかと、やがて舍から歸つて來て夫が微笑して言つても顏を赤めて同じく微笑するばかり。あどけ無さをば猜次も大に可愛がりました。　が、たゞ内氣であるといふだけあら何の事も無い、そこに一つまた阿秋にも瑕が有るといふのは阿秋が兎角物と打ち明けぬ癖の有る事でした尋ねて見れば阿秋の里の母といふのは腹をいためなかつた中合ひ、それで何や角や隱しだてを爲たがるやうにも爲ッたのでしやう。　が、こまるのは、まことに傍から見ても齒痒い程なのはその隱しだてを爲る相手が嫉妬ぶかい方でした。夫婦と爲つた上でかくしだてを爲るのは其相手同士の身に爲つて面白くも無い事。そのかくしだてが馬鹿遠慮、たゞの内氣とばかりと誰も思つて居ません。

　よく隱し立てを爲て、ある時なぞは小遣帳れ結算が旨く合はぬとやらで阿秋は非常に心配し、こつそりとわが臍くりの中から出して知れぬやうに補つて置いて、それから猜次が更によく勘定しあはして見ると別段何も足りぬ處れ有るのでも無いといふ事が分かり、さア金の餘りが有るので不審だといろいろ調べても終に阿秋は打ち明かさず、果はつまらぬ邪推が其處に包いた事なども有りました。

　凡そこれ体ゆゑどうも一家内が何となく變でした。　たまに阿秋が隱しだてを爲ずに眞を言つてもいとゞ嫉妬れ質とて猜次は直とは信ぜず、一應あたり直しました。

　あたり直す、それも一つは阿秋自分から起つたこと、自分がつまらぬ隱しだてをとする故とてわが身れ上れ事とて阿秋は氣も付かせ、一概にまた夫れ嫉妬ばかりが目に付いて、それゆゑ益も無い事でうたがはれてはいけぬとます／＼隱し立てを爲るやうに爲りました。　無論どちらがいゝとも惡いと言へぬ仕儀。しかしそれ故に叉落着が早くありませんでした嫉妬とかくし立てが常に／＼これ一家につきまとひました

數學

加法

緑梅子

筆算は理論が明らかでそして覺り易く算法が簡略でそして容易です。之れと理論が不明でそして算法の繁雜な珠算に比べたなら天壤の差異のみではありますまい。が「加法だけは珠算の法が便利のやうに思はれる」。といふ御方はまだ十人の中で八九人あるでせう。それ故私は筆算の加法に就て私の意見を述べる積です。

で、今まで加法と算するには何故珠算が早かつたかといへば、珠算は加數と呼ぶと直くに運算を施すことが出來て、筆算では一々加數を記載した上で更に運算を始めなければならぬからです。これは筆算の仕方が早くないからの事で、今から改良を加へたなら充分珠算にも及ぶだけの‥‥否遙かに勝つた算法も出來ませう。

この算法に就ては一昨年の正月でした。山口縣の人が或雜誌で其意見を述べられました。私も其時は其説に隨つて夫れで宜い事と思ひました。が、此頃妹に筆算で珠算の樣に早く加法を行ふ法の有無を尋ねられました。私も他に用事が有りましたから此の雜誌を御覽と云つて本箱から某雜誌を出して與へました。妹は不滿の樣子で何か云ひ出しさうでしたが、母の呼び聲に立つた後で私は其雜誌を見るに、循環小數の場合などには少々不都合を生ずる事を發見しました。其發見が源因となつて、私は次の樣な算法を考へ出しました。此算法を妹に敎へて屢々驗させましたが先づ無難の樣でした。此上の望は只熟練一つであると思ひました。

先づ第一數を始めに書いて第二の數を呼ぶ時に首位から初めて第一數と同じ位の數に加へて二段の同じ位に記し其和が若し上位に進めば其1を第一數の其位の數に加へて二段に記すのです。此運算の中に已に書いた數へ下の位から進むこともあるでせう。この場合には進んだ位の數字に細き線を引きます。(假令ば進んだ位の數字が3なら3̸)。少し紛らしい樣ですが0̸ 1̸ 2̸ 3̸ 4̸ 5̸ 6̸ 7̸ 8̸ 9̸はそれぞれ1 2 3 4 5 6 7 8 9 0に同じと言ふことを記憶して居なければなりません。で、9の時には同時に上の位の數字に細き線を引くか或は1を加へて同段に記すのは肝要です。此他に一寸覺えて置くのは多數の加法で前の段と數字に變りがなければ――加へる數が空であれば記すに及びません。此法を繰返して第三第四以上の各數を殘らず加へて、終に一つの横線を引きて、そ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

して今また略した數も殘らず記します。　これは其結果の答とあるからです。例を擧げて運算の經路と御目に懸けませう。

題、5378, 827, 330, 468, 10040, 2570, 294　の和を求む

```
 5378
  285
   53
 7883
1   4
  951
  807
─────
19907
```

答一万九千九百〇七

右の例は成るべく種々の場合を示す爲め態と困難に作つたのですから一寸見れば法に叛いた樣なところもあります。今左に其解釋と少し綴りませう。

第一數の百位に八を加へて十一となる場合に法では1を其位の下に書き5に1と加へて6として第二段に書く樣に云ひました。然るに5を用ひたのは6を書くより5に細き線を引く方が早いからです。6を二段に書いても差支ないです。其外も大体前に照り合したら譯りませう。皆樣吟味して御覽なさい。

私は少し云ひ落しましたが數位を誤り易いといふ念が浮んだなら未だ運算を始めぬ先きに、算盤にある樣に圓十錢厘毛あり石斗升合夕あり、それ〳〵位取りをして宜しいです。

（をはり）

第四十九号解義

岡田榮吉

●算術

(1)此題はよくある題ですがたゞ袋とばかりでは其形ち等も一定しません。が先づ立方形のものとして解きましやう。

そべて立方体の表面積の三乘は体積の二乘に比例するものでこゝでは二枚と三枚の表面積、一圓五十錢の体積と見られます。乃ち次の式を得ます。

$2^3 : 3^3 :: 15^2 : x^2$，是と解いて答二圓七十五錢五厘强を得ます

(2)八と百二十五との相乘積は丁度一千となりますからある數と百二十五除するには八を乘して一千で除るのと同しことです。　から或數を百二十五除する簡法は其數に八を乘して末位三位を除えて單位を置くことです。假令ば。

5375 ÷ 125 は 5375×8=43000，即ち43です。

(3)そべてある數に甲の數を乘し又乙の數を乘するのは恰かもある數に甲と乙との相乘積を乘ずるのに同しです。殊に今　142857143と7を一數に乘ずるのは　142857143×7=1000000001　を乘けるのと變りません。然るに此數は空位が八つあつて單位が一ですから九位以下の某數と乘ければ某

乗數の終りに顯はれることは勿論です。

(4) 今十三で試ろむれば、$\frac{1}{13}=.\dot{0}7692\dot{3}=\frac{76923}{999999}=\frac{76923}{999\times1001}$ 今此分數の分母は分子の十三倍あることは勿論で、且つ1001は十三の倍數ですからこの分子は是非とも999で除れなければなりません。されば $76923=76\times1000+923=76\times(999+1)+923=76\times999+(76+923)$ これが（前言に因て）999の倍數で見れば $76+923$ は999の倍數で、しかも一倍なることは明かです。故に $76+923=999$ となることは無論です。

(5) この運算、理論はともに式で顯はした方が簡便でしやう。

(a) $127^2-123^2=127\times127-127\times123+127\times123-123\times123=127\times(127-123)+123\times(127-123)=(127-123)\times(127+123)=4\times250=1000$

(b) $49^2=(50-1)^2=(50-1)\times(50-1)=(50-1)\times50-(50-1)\times1=50\times50-1\times50-50\times1+1=50^2-2\times50+1=2500-100+1=2410$

(c) $53\times47=(50+3)(50-3)=50\times50-50\times3+50\times3-3\times3=50^2-3=2500-9=2491$

右皆答綠梅子

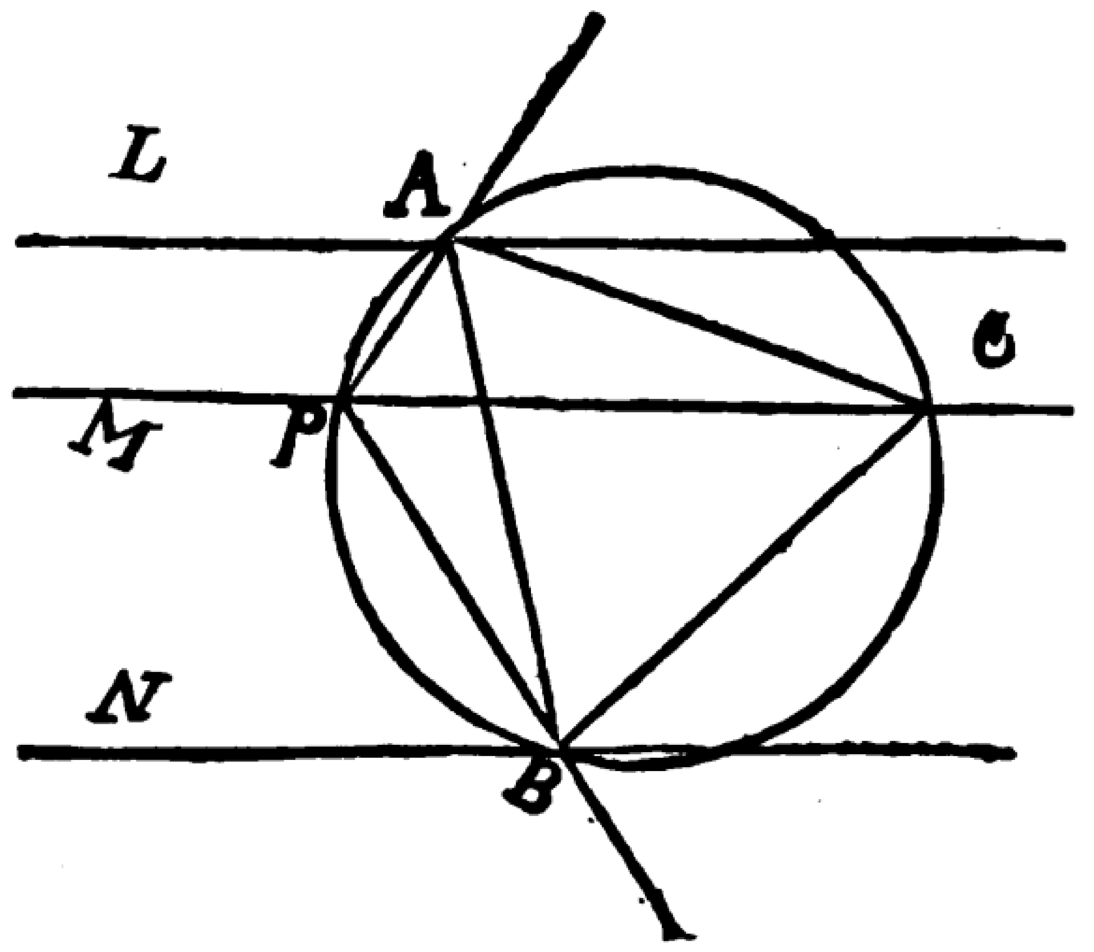
●代數　　　岡田榮吉

(1) $x^7-x=x(x-1)(x+1)(x^2-x+1)(x^2+x+1)$，然るに分括法により $x^2-x+1=x^2-x-6+7=(x-3)(x+2)+1$，$x^2+x+1=x^2+x-6+7=(x+3)(x-2)+7$，故に $x^7-x=x(x-1)(x+1)(x^2-x+1)(x^2+x+1)=x(x-1)(x+1)\{(x-3)(x+2)+7\}\{(x+3)(x-2)+7\}$ 然るに此式で $x, x-1, x+1, x-3, x+2, x+3x-2$ は必ず連續七數となします。從つて此七數の中の何れかゞ7で除れ且つ $x(x-1)(x+1)$ は連續三數ですから2と3の相乘6で除れます。してみれば此の x^7-x は $6\times7=42$ で除り盡し得ることが明かです。

(2) $\frac{1}{1-\frac{1}{1+\frac{1}{x}}}=\frac{1+\frac{1}{x}}{1+\frac{1}{x}-1}=x+1$，$\frac{\frac{3x}{2}+\frac{x-1}{3}}{\frac{13}{6}(x+1)-\frac{x}{3}-2\frac{1}{2}}=\frac{9x+2x-2}{13x+13-2x-15}=1$ ∴ 本式$=x+1-1=x$

(3) 答五十五、四十五。（解）一數を x 他の數を $100-x$ とせば $x^2-(100-x)^2=1000$，之を解きて $x=55$ を得。

●幾何　岡田榮吉



(1)（作法）L、M、N、の三平行線の中の一線Mの上に任意にP点を取り、∠APC,∠BPCと各$\frac{2}{3}$Rにして PA、PB と造りA、BにてL、Nに交らせ、そしてA、P、B、の三點を通る圓APBを造つてMとCにて交らせれば△ABCは求むる正三角形です。

（證明）∠ABC,∠APC は等弧に乘ぜる圓周角なれば圓の定理に因つて互に等しく又∠BAC,∠BPC も同じ理で等しいです。即ち∠ABC,∠BAC は各$\frac{2}{3}$Rで從て∠BCAも$\frac{2}{3}$Rです。然れば△ABCは正三角形で題意に適することが明かです。

算術　槐月陰史

(1) 二位の素數で一數を正約し得るなら其末位を消して其の數字の十六倍を上位から引き去り、復た前の法を操り返して行くならば終には零か其素數の倍數が殘ります。其素數は？

(2) $1+\frac{2}{3}+\frac{4}{9}+\frac{8}{27}+$……上式の値を七位迄算出せよ。

(3) テーブルの直徑を量るに吳服尺では盈り二尺四寸曲尺では二寸不足しました。このテーブルの周圍は曲尺で何尺でしやうか。

(4) nを整數とすれば$10^{\frac{n}{2}}$と$n+1$との和との差相乘積は10^nと約數ならざる數の因數となります。其理？

代數　槐月陰史

(1) 次の式でx yの値と正の整數とすればx yは四の倍數です。

$$\frac{x^{\frac{3}{2}}-xy^{\frac{1}{2}}+x^{\frac{1}{2}}y-y^{\frac{3}{2}}}{x^{\frac{1}{2}}-y^{\frac{1}{2}}}=xy$$

(2) $\frac{x}{x^2+1}+\frac{x^2+1}{x}=\frac{5}{2}$を解け！　岡田榮吉

幾何　槐月陰史

(1) 二十一角形內には何個の對角線を引くことが出來ます

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY